

Y2-18

大阪赤十字病院 dERU の管理、出動体制

大阪赤十字病院 国際医療救援部
次田 順司、弘川 摩子、清水 亮平、
中出 雅治

【はじめに】大阪赤十字病院では、平成18年より、社会事業部が管轄していた国内救護を国際医療救援部（以下救援部）に移動し、発災から速やかに出動するべく、人及び車両を含む資機材の体制を抜本的に変更した。

【救護員】経験年数や自宅と病院との距離などから2年任期で90名～100名を固定（平成23年度は101名）し、全員の携帯メールアドレスを救援部に登録。こころのケア研修以外に年4回の研修（基礎、ステップアップ、dERU、除染）を義務付け。事務職員はこれらに加えてトラック運転訓練。発災時には、救援部より一斉にアラートメールを出し、班編成を行う。ダミーメール発信を随時行い、返信状況を確認。ブロック訓練では救護員に日時を伏せた上でアラートメールを発信し、参集。また職種は、従来の班編成（医師1、看護師3、主事2）をなくし、災害によりフレキシブルに対応。チームリーダーも医師に固定せず、メンバーを見て師長や事務など適任者を救援部で決定。

【資機材】救護班医療セットの医薬品は薬剤部に一人担当を決め、有効期限を含めて在庫管理。dERUの薬剤もカートごと薬剤部で管理。医療材料は定期的に担当看護師とSPD業者が点検し入れ替え。dERU車両は病院運転手が週一回エンジンをかけてバッテリーを、ガソリンは救援部事務が定期的に点検。要員用乗用車はマイクロバス型救急車（10人乗り）を準備し、常時水、非常食、医薬品、寝袋、毛布を搭載。現金は日中は会計課が、夜間、休日は救急センターの釣り銭を充てるルール。

【東日本大震災での出動状況】14時46分ごろ発災。同58分救援部よりアラートメール発信。15時15分初動班編成完了。16時30分出動準備完了し、要請待ち。実際の出動は17時25分。

Y2-19

石巻市内避難所等における蛇口付給水器の整備

名古屋第二赤十字病院 臨床工学科¹⁾、
名古屋第二赤十字病院 施設購入管理課²⁾、
日本赤十字社 国際部³⁾、
石巻赤十字病院 医療社会事業部⁴⁾、
京都第一赤十字病院 医療社会事業部⁵⁾
山田 悌士¹⁾、浅井由樹夫²⁾、松原 裕司³⁾、
高橋 邦治⁴⁾、柿本 雅彦⁵⁾

【はじめに】ニーズ調査プロジェクトチームの報告により上下水道の復旧が完了していない避難所等での衛生環境の悪化が懸念され、特に仮設トイレ付近に手洗い場の設備は少なく早急な対応が必要であると提言されていた。石巻市内の13ヶ所を調査し9ヶ所に手洗いを目的とした蛇口付給水器を設置した。

【活動内容】本社にて12基の蛇口付給水器を調達し支援ニーズが確認された9ヶ所に設置した。貯水タンクは地上より最低70cmの高さに設置する必要があることから、設置台の材料として使用後の再利用と組み立ての容易さを考慮し、市内の酒販業者からプラスチック製のビールケースとパレットを無償での長期貸し出しにより調達した。設置は事前に石巻市水道局との調整のもとに実施され、給水タンクへの注水は市水道局が担当した。設置後は水道局が避難所等からの連絡を受け、又は定期的な給水車の巡回の際に注水することで合意した。

【考察】医療救護が中心の日赤の国内救護において、避難所等の衛生環境の改善を目的に、ERUが海外で展開する際に通常使用している蛇口付給水器を国内で初めて活用した事例となった。今後の復旧、復興期に海外での復興支援事業の経験を国内においても活用する柔軟な発想が必要だと思われる。今回の給水設備の設置は、発災して約1ヶ月後に実施されたが、同様のニーズは今後発生する国内災害でも存在すると思われ、初期の段階から避難所等の衛生環境の維持、改善を目的とした給水設備の設置を救護活動の一つとして組み込んでおくべきと思われた。